日本キリスト教団 東金教会（13）

2019年3月31日復活前第3主日礼拝

年度目標　《キリストに根を下ろして生きる》

聖句　キリストに根を下ろして造り上げられ、教えられた通りの信仰をしっかり守って…　コロサイ2章7節

【礼拝式次第】

司式　宮中
奏楽　中村
受付　今井
案内　藤本
名札係　宮中
礼拝感謝祈祷　薬師寺
〃　〃　井上

前奏		中村
讃美歌	93	一同
使徒信条	566	〃
交読文	13	司・会衆
主の祈り	564	一同
聖書	ルカ福音書 15:1～3,11B～32	司会者
祈祷		宮中
新聖歌	107	一同
み言葉の伝え		梅田
	〈走り寄る神〉	
讃美歌	526	一同
献金		
礼拝感謝		薬師寺
〃　〃		井上
報告		宮中
頌栄	541	一同
祝祷(派遣)		梅田
後奏	新聖歌58	聖歌隊

【集会案内】

聖書研究祈祷会　4月3日(水)午後7:30～
早天祈祷会　月-金7時(除日・祭日)メーヤー館
聖歌練習　本日礼拝後
礼拝委員会　本日礼拝後
聖書輪読会　4月7日(日)9:50-10:10
礼拝準備祈祷会　4月7日(日)10:25-10:30

【報告】

☆本日の講壇は梅田　先生にお守りいただきました。ご奉仕有難うございました。

☆本日は礼拝委員会がございます。礼拝委員は銀杏ルームにお集り下さい。又、かねてからお伝えしておりました送迎用自動車がまいりましたので同時に自動車委員会を持ちたいと思います。足立　、森川　、武田　の各氏もお集り下さい。

☆ときがね保育園は4月1日(月)より2019年度の保育事業が始業されます。又、幼稚園は4月8日(月)が始業式、4月11日(木)が入園式となります。ご加祷下さい。

☆既にお伝えのように九十九里教会イースター・コンサートが4月6日(土)午後3時より開演です。お出かけ下さり、九十九里教会をお励まし下さい。自動車同乗希望者は2時半までに東金教会においで下さい。

☆今年のイースター担当は4月14日(棕櫚の主日)の礼拝は中村牧師、21日のイースター礼拝は朴牧師が講壇を担当です。ご加祷下さい。

☆4月19日(金)午後7時半、主イエスの十字架を覚える受難日祈祷会を持ちます。お覚え下さり、祈祷会に出席下さい。尚、水曜日の祈祷会に変更はありません。

☆4月22日(月)は千葉支区総会日です。ご加祷下さい。

☆イースター献金、克己献金覚えてお捧げ下さい。

【3月31日～4月6日の誕生者】

○足立　兄　○安延　兄　○石黒　兄
○荒井　兄　○中村　兄　○青木　兄

※おめでとうございます。主に繋がる枝々であることを覚え、皆で祈り合わせて参りましょう。

【先週集会状況】

集会名	男	女	計
主日礼拝(3/24)	12	28	40
聖研祈祷会(3/27)	4	3	7
聖書輪読会(3/24)	2	3	5
教会学校(3/24)	3	12	15

早天祈祷会			
日	男	女	計
3/25	1	1	2
3/26	1	1	2
3/27	1	1	2
3/28			
3/29	1	1	2

主日礼拝献金(3/24)……79,424円
教会学校献金(3/24)……34,550円

【今日のメッセージ】

題　[走り寄る神]
聖書　ルカ福音書15:1～3,11b～32

1・人間の罪の物語

2・神の救済の物語

3・語り手、主イエスの物語

【次週(4月7日)礼拝案内】

題	〈すべてを主イエスの名によって〉
聖書	コロサイ書:3：12～17
交読文	14
讃美歌	12番　274番　494番
新聖歌	321番

【次週(4月7日)礼拝式当番者】

御言葉の伝え…	中村
司式者…	森川
奏楽者…	中里
受付者…	三枝
案内者…	中島
名札当番…	安延
礼拝感謝祈祷…	戸波
〃　〃…	猪野
cs お話し…	岡部
会堂清掃者…	幼稚園教諭
〃　〃…	
花係…	小林
看板書き…	戸波

【次週聖餐式当番者】

配餐者……	井上・岡村
祈祷者……	寺内・戸波

【聖書から】

キリストがすべてであり、すべてのもののうちにおられるのです。

コロサイ三書一一章一〇節

パウロは八節以下において私たちキリスト者が新しくなることを求めている。「古い人をその行いと共に脱ぎ捨て、造り主の姿に倣う新しい人を身に着け、日々新たにされて、眞の知識に達するのです」と言う。この僅かの言葉の中に信仰者の生が凝縮されているような言葉である。この言葉は例えて云えば信仰者として百点満点の在り方を示している。この言葉を基準として云えば私たちの生き方はそのうちの何点ほどであろうか。人によってその認識が違うかも知れない。けれどもこの言葉を前にして「自分は百点です！」と言い得るものは誰もいないであろう。ある者は五十点ぐらい、ある者は三〇点、ある者は一〇点、いや一点もいかない…、様々の思いが胸に浮かぶのである。パウロのこの言葉は私たちに不可能を強いる言葉である。私たちは蝶になるべく蛹として悶えているような者ではないか。それで良いのだと思う。もしこの悶えがなくなったら、それは私たちが理想型に達したというのでなく、信仰者として死にかかっているということを示している。もがきつつ、日々に新しくされることを願いつつ生きることこそ必要な生き方である。けれどもこのような生には欠けてならないものが一つだけある。それがキリストへの信仰である。この信仰の心が枯渇してきたらそれこそが私たちの危機である。そしてこの信仰の心は他から、即ち聖書の神から供給される。神は聖霊なる神のお働きを通し、救い主キリストへのあこがれを私たちに注がれる。私たちの真面目さ、私たちの行い、私たちの信仰心が私たちにキリストを求めさせるのではない。私たちの間違いは信仰の心を自家発電で生み出せるという、抜き難い自己信頼があることである。自家発電ではキリストへの服従の心は生み出せない。信仰の核―キリストへのひたすらなる信頼―すらも神からの注ぎ込みに依ることを信じ、仰ぎつつ生きることこそ我らの生である。

【礼拝心得】

①礼拝は前奏から後奏までを守る。
②入堂したら私語を交さず、前奏までの時を黙想する。
③遅れてきた者は静かに入堂し、特に祈祷の時は入堂を控え、その場で共に祈りを守る。
④礼拝後は互いに挨拶を交し、交わりの時を持つ。
⑤各自週報棚を整理し、欠席者に週報を届ける。